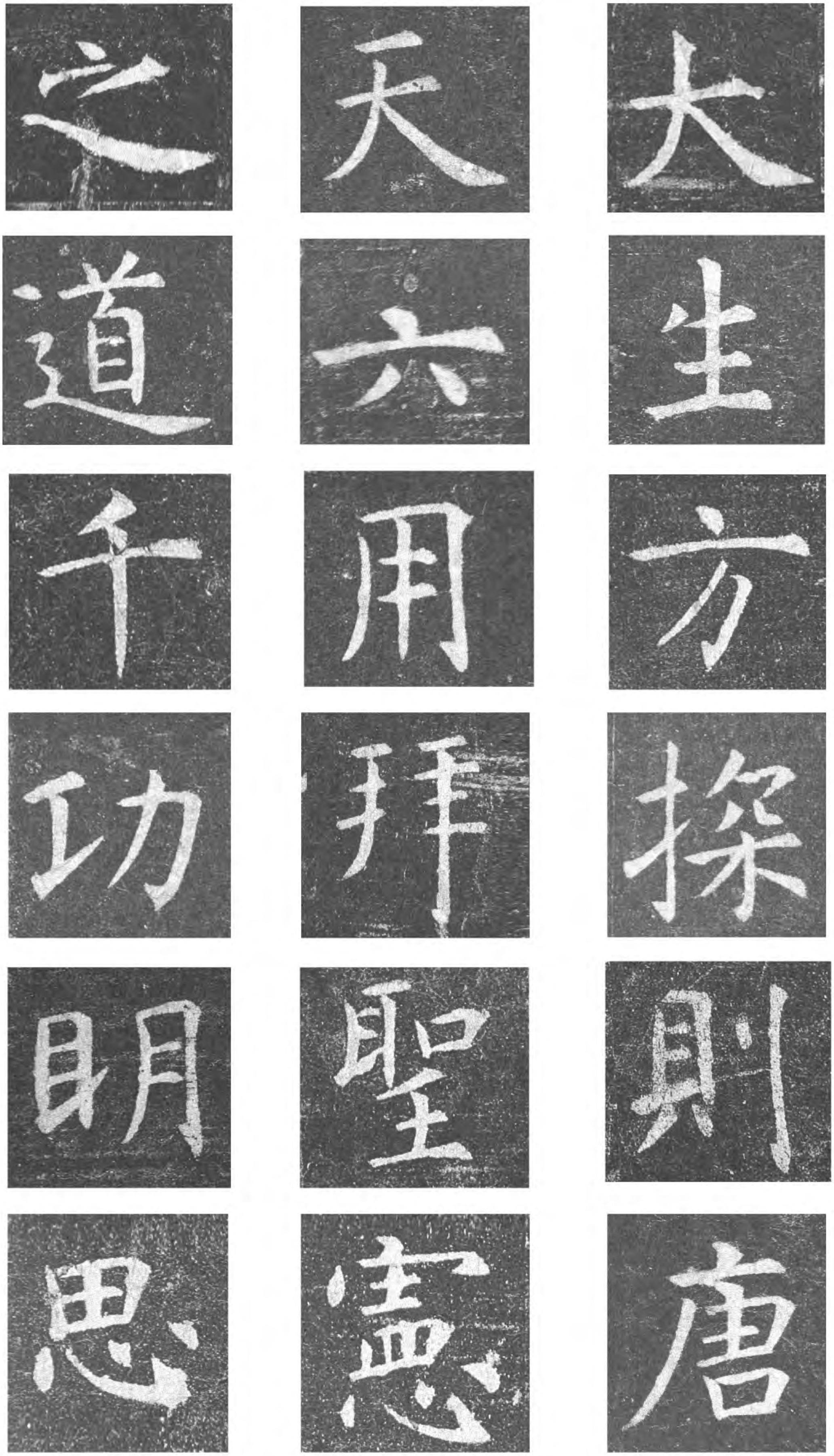
主図版①



「書の古典観照」②

虞世南「孔子廟堂碑」中

図版②

世界にただ一つの拓本(孤本)のみが伝わる孔子廟堂碑拓本(三井記念美術館蔵)を、緻密に研究した学者は翁方綱(1733～1818)である(図版③)。その詳細な研究成果は、孤本とされる孔子廟堂碑拓本の余白に見事な小楷で筆記されている。前号で示した頁の六十字のうち四十ほどが、後の西安碑林に伝わる作り直された重刻碑の拓本であることを記している(図版④写真反転部分)。残りの余り明確に見えない二十字が、最初に建てられた孔子廟堂碑の原石拓本であると。(以後、この唯一の孔子廟堂碑拓本を『唐石拓孔子廟堂碑』という。)『唐石拓孔子廟堂碑』の文字の破損のない数十字が並ぶ様な綺麗な部分は、重刻の拓本である。この翁方綱の見解を西安本の重刻拓本を用いて確認した。古くから影印されている『唐石拓孔子廟堂碑』は全体で2045字がある。翁方綱が指摘する重刻や塗墨された文字をのぞくと、唐石拓の文字は1128字であり、全体の半分弱の文字が、重刻の陝西本で補われている。重刻拓本と唐石拓本の違いは、原寸で確認すると解りにくい。やや拡大してその違いを示した。「千」「方」「用」の三字の点画の起筆、送筆、終筆などの抑揚が、かなり異なる(図版②)。右側の唐石本の文字は、実に爽やかで伸びやかであり、力強い。左の重刻本は、やや鈍い線質である。右頁の主図版①には、唐石拓の文字の中から稍保存のいい部分を選び、集字し、鑑賞しやすいようにやや拡大した。それぞれの文字の点画、構成、筆勢を改めて確認してみてください。

伊藤滋（書斎名・木鶏室）

図版③

図版④

反転された文字は、西安本拓本である。

書道芸術院

平成の群像（2018）

恒次鶴城

「長い毛がしらが」　　恒次鶴城書

現代は高度情報化社会、ハイテクざんまいの真っ只中、いささか時代の重さを感じているところです。外的な要因のみならず、生活の条件も入れて、世界の多種多様性を自分自身にも求めてきました。決して独善軽薄に流されることにならないようにと思う反面、基本に立ち返って……と云うのもおこがましいですが、自制心を失わないよう心掛けているつもりでおります。

小生が書くことを意識し始めたのは青春時代の頃でした。読み・書き・ソロバンの時代に育ち、比較的抵抗なく、筆を持つこと、文字を書くことにすんなり入れたように覚えています。

最初の古典は、絵に書いたように学校の先生の言葉通り、王羲之との出会いがあり、それが「書道」の始まりになりました。楷、行、草とも、そのあたりをうろうろしながら、なんとなく時が立ち、また一服してみたりのもったいない日々を過しておりました。

そうこうする内に現在も住んでいる岡山（東地区）の和気町に、昭和45年4月新しく中央公民館が新築されて、書道講座が誕生。当時の公民館長に引っ張られる形で書道講師の端くれとして活動し始めました。勉強不足を感じた始まりでもありましたし、立ち上がるきっかけにもなりました。

教材は知り合いのお世話で、三宅素峰先生主宰の月刊競書紙「書芸」に決まりました。そこからが本格的な書活動の始まりで、三宅先生との出会いは衝撃的だったように思います。近代詩文書を書いたら…程度の決して重たい言葉ではなかったのですが、後で自分の世界の狭さを思い知らされることになりました。

三宅先生との出会いがあったから、種谷扇舟先生、恩地春洋先生、辻元大雲先生等々多くの大先生方とお会いする機会にめぐまれ、高邁な精神性豊かな作品を学ぶことができました。

今でこそ、書とは何ぞやとか、とんちんかんでも書論を論じ、書美について考えこむことが度々ありますが、まだそれ程書に通じているはずもないとの思いが先に立ちます。

振り返って見て、三宅先生の厳格でこわもてとも感じられる風格から生まれる軽妙な作品からは、素朴、単純静寂、枯淡の言葉でも味わえない不思議な感性で満ち満ちてくるのが見えてきます。そこに書のヒントを示しているのかもしれません。美しさを常に「よし」とした先生のはずなのに、華美にならず、幽玄優先。どうせ、それを模索できぬのなら「逆らった自己主張もありかな」と思わぬでもありませんが、今は、有望な若手書友と共に近代詩文書の未来へ一歩一歩階段を昇るごとく、道を開きつつ歩んでいければ幸運です。

書のひろば

理事長　辻元大雲

（公財）書道芸術院定例理事会

平成30年度第一回定例理事会が5月12日、本院事務所にて開催され、左記の議事を中心として審議された。

・平成29年度事業報告、決算の承認
・定時評議員会の招集（6月9日）
・第72回書道芸術院展関係人事
（参与・常任総務・総務への昇格、復帰・移籍・退会者ほか）
・秋季展選考委員決定
・書道芸術院展・学生展各部部長決定
・単位認定講習未受講者への特例措置

詳細内容は別記次号「院報」にて発表されるのでご確認を。

第168回（公社）全日本書道連盟理事会開催

5月10日上野精養軒にて表記全日本書道連盟定例理事会が開催された。

主な議事内容

・書写書道教育推進協議会の活動報告

小学校1・2年生から導入される水書指導の指導者研修が今後5年間にわたり全国各地で展開される。用具、指導法など具体的な検討が精力的に進められている。4月13日には書道用具生産業者、販売業者、教科書会社など44社60余名の参加で説明会も開催され、本院から片岡豪峰事務局次長もオブザーバー参加した。

・日本書道ユネスコ登録推進協議会

2020年登録を目指しているが他の有力なジャンルからの推薦が決まりそうで苦戦している。2年に1件しか推薦されないため、情勢は厳しいものがある。継続的に息の長い運動が求められている。ご理解とご支援を。

・助け合い募金報告

380件（団体・個人）より382万余円の募金協力があり、270万円を日赤へ、100万円を中国大使館を通じて中国の社会事業へ寄付を行った。

本年度も同様に実施するが日赤と中国大使館に各100万円とし、残額を連盟の公益事業に充てることを決定した。連盟の財政状況、書写書道教育振興、ユネスコ登録など長期的な事業推進のための措置。ご理解を。

・平成29年度事業報告・決算承認

夏期書道大学、講演会、会報発行などほぼ予定通り行われ、収支も黒字決算となった。

・平成30年度総会　6月7日（木）12：30上野精養軒。講演会13：30より。講師文科省教科調査官、文教大教授豊口和士先生。演題「書写書道教育のこれから－新学習指導要領を踏まえて－」参加自由。

・平成30年度夏期書道大学講座

8月3～5日池袋サンシャインシティ前号にて既報。

・日中平和友好条約締結40周年記念日中書道交流展、シンポジウム開催

本年9月中旬北京にてシンポジウム、12月に飯田橋の日中友好会館美術館にて日中書道代表作家展、北京展も計画中。

・その他助成申請の認可

第70回毎日書道展搬入・鑑別も

第70回の記念展となった毎日書道展の公募・会友の搬入が5月14～16日毎日ホールにて行われ、搬入点数は左記の通り。

第70回毎日書道展出品概況　2018.5.22現在

部門	会友	会友公募	公募	U23	会友・公募合算	U23以外合算	総合計
漢字Ⅰ類	1,592	700	2,877	292	3,577	5,169	5,461
漢字Ⅱ類	1,106	2,159	3,123	528	5,282	6,388	6,916
かなⅠ類	266	852	766	123	1,618	1,884	2,007
かなⅡ類	863	507	1,218	83	1,725	2,588	2,671
近代詩文書部	1,516	723	3,730	612	4,453	5,969	6,581
大字書部	499	520	1,125	236	1,645	2,144	2,380
篆刻部	92	70	282	33	352	444	477
刻字部	73	9	753	19	762	835	854
前衛書部	283	169	990	55	1,159	1,442	1,497
総合計	6,290	5,709	14,864	1,981	20,573	26,863	28,844

5月25～27日国立新美術館審査室にて各部の鑑別が行われた。（刻字部のみ6月審査時に）。公募の入選率は50%が維持され、やはり中々の難関であった。

入選作品は6月25～27日に会友作品と共に表具の後、再搬入され入賞審査が行われる。

会員以上の役員作品は6月25・26日に搬入され、7月4日会員賞、5日に文科大臣賞選考が行われる。

70回記念特別企画展示は「墨魂の昴」と題し、明治から昭和戦前までの書道史上の著名作家の遺墨が展示される。会期中7回、理事による解説会も開催予定。作品集も発行される。この企画展示は東京会場のみであり、地方の会員諸氏にはご苦労をおかけするが是非上京して参観を。（作品集予価3000円、本院総務以上の役員へは院事業予算より計上し贈呈する予定。ご承知下さい）

創立45周年記念 日本詩文書作家協会書展開催

6月5日より17日まで2週間、東京セントラルミュージアム銀座にて開催される。記念展として日本歌人クラブの協力を頂き、協会理事以上の役員が歌人クラブ役員作家55名からご提供の短歌を分担して揮毫、発表する。ほかは協会評議員（毎日展審査会員）全員が自由に選択した詩歌を発表する。ご高覧を。

・講演会　6月13日（水）午後2時
講師　三枝昂之日本歌人クラブ会長
・席上揮毫会　9、10日午後2時
出品作家代表（本院より飯沼恵鳳氏）

小竹石雲　岡山山陽新聞賞受賞祝賀会盛会に

平成29年度岡山山陽新聞賞文化功労受賞の祝賀会が5月20日、ホテルグランヴィア岡山にて300余名の参加者で盛大に開催された。本院から辻元理事長、下谷常務理事・種谷萬城理事ほか多数が参加した。

前衛書（三）

大井 美津江

先人の教え(1)

前回、臨書の大切さを述べさせていただきました。今回は前衛書の魅力を広く伝えた先人について触れたいと思います。古典を深く究め、臨書研究の基礎を固め、臨書観を拡大し創造をめざす方向に転化させた比田井天来先生など多くの先生の教えが心に残ります。

私の育った群馬の先駆者の中では大沢雅休先生（1890〜1953）らの業績が忘れられません。

雅休先生は、新しい書への指導のため全国に出向き、同志拡大に力を尽くされました。その一つに上毛書人会があります。今春、高崎シティギャラリーで第13回上毛書人会展が開催されました。それぞれが墨の濃淡で心象を表現した110数点の中に、心の内面を鮮烈に書線に込められた「草華」と題した雅休先生の遺作も展示されました。

生きることは「知ること、感動すること」と言われます。先生の創意に満ち、造形性に富む表現を深く心に刻みたいと思います。

雅休先生は、書作のほか短歌でも心を表現しました。

「ひたむきにひとつのものを押しすすめいゆかばよろしゆきつかずとも」（雅休歌）

第13回上毛書人会展　大井美津江書

21世紀の書

—私の主張—

現代詩文書（三）

小池 蹊舟

心地よい書

—自然の安らぎ—

〈思いを伝える〉

「人生一〇〇年時代」という言葉を目にするようになりました。私自身、これは大変な事になったと思っています。明治の人は「人生五〇年」と言っていたのですから。

長い人生良い事ばかりであるはずがありません。辛い時、悲しい時、迷う時、支えになるものが必要です。

音楽家は音楽で、画家は絵画で、文筆家は文章で、人々に勇気や楽しみや癒しを与えてくれます。私は書作品を通して、観て下さる方々に何かを伝えたいと思っています。

〈自然のゆらぎ〉

今回の掲載作品は、第70回書道芸術院展出品作です。「f分の一ゆらぎ」という言葉があります。人々を心地よくする揺れの事です。電車の振動や、謡いの旋律や、モーツァルトの旋律等。

人の脳は、「退屈が嫌い」な様で、同じ繰り返しにホッとする安らぎを感じていても、長く続くと退屈してハッとした新しい刺激を求めます。自然の中には脳に心地良さを感じさせるリズムや形があると思います。「f分の一ゆらぎ」を書においても大切にしたいと思います。

第70回記念書道芸術院展　「森にて」　小池蹊舟書

平成30年度
第54回書道芸術院単位認定講習会のご案内

書道芸術院単位認定講習会を下記の通り開催します。お誘い合わせの上ご参加ください。

なお、このご案内は、審査会員候補並びに審査会員の皆様に送付しております。無鑑査並びに一般の皆様にもご案内いただければ幸いに存じます。

記

1．目　的　総合団体である本院の性格から、所属部門以外についても幅広く学習し資質の向上を図ることを目的とする。（審査会員になるには、本講習会の受講が必須）

2．期　日　平成30年８月25日（土）９時20分　開会 ～ ８月26日（日）15時15分　閉会

3．会　場　三 翠 園　☎ 088-822-0131　FAX 088-822-0141
〒 780-0862　高知市鷹匠町１-３-35

4．主　管　四国支局長　大野　祥雲
〒 780-8063　高知県高知市朝倉丙234-16　☎ 088-843-0732

5．内　容　単位認定 ８講座　理論（書道芸術院史、原拓書道史）
実技（漢字、かな、現代詩文、篆刻・刻字、前衛書、一般教養）

6．費　用　講習料（運営費）…………………………………………………… 5,000円
８月25日宿泊代（1泊懇親会、朝食、昼食2日分税サ込、写真代）　20,000円
前泊宿泊代　８月24日夕、朝食税サ込 ………………………………… 14,500円
後泊宿泊代　８月26日夕、朝食税サ込 ………………………………… 14,500円

A．講習会参加（８／25・26参加） 25,000円	C. 後泊（８／25・26・27参加） 39,500円
B．前泊（８／24・25・26参加） 39,500円	D 前後泊（８／24・25・26・27参加） 54,000円

※教材としてテキスト、篆刻・刻字用材料などは、個人で購入していただきます。
※出店業者…未定
※会費は、申し込み後、決定者へ通知時に同封する振込用紙で納入してください。

7．科目と講師（講習順序は、受講者決定通知時にお知らせします）

【漢　　字】　半田　藤扇　　【か　　な】　木村　東舟
【現代詩文書】　大平　邑峰　　【篆刻・刻字】　清水　翠径
【前　衛　書】　倉林　紅瑤　　【原拓書道史】　種谷　萬城
【院　　史】　辻元　大雲　　【一 般 教 養】　渡部　　淳（高知城歴史博物館館長）

8．申込方法

（１）定員　150名（講師団・役員を含む）資格は問いませんが下記の資格を優先します。
①審査会員候補　②審査会員　③無鑑査　④一般

（２）**申込期限　平成30年6月20日（水）**

（３）同封の参加申込書に記入の上、下記の事務局に郵送で申込をしてください。

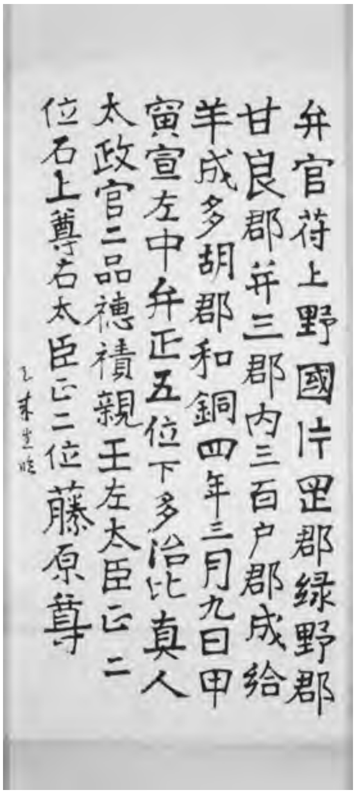
※申込締め切り後、受講決定者には、詳しい要項と会費払込用紙を送付致します。

事務局　四国支局　事務局長　川村　美泉
〒782-0051 高知県香美市土佐山田町楠目756－10
携帯 090－9556－9540　自宅電話 0887－52－4403

多胡碑③　奈良時代

〈**解説**〉多胡碑は江戸時代中期、高橋道斎と沢田東江によって、その歴史的意義・書道的価値を広く世に紹介された。やがて道斎・東江の多胡碑拓本や模刻本が朝鮮通信使を通じて朝鮮に渡り、さらに中国に伝えられた。揚守敬は『望堂金石集』、『楷法遡源』等を著し多胡碑を紹介し、清朝金石学を代表する趙之謙は臨書作品を残している。いかに多胡碑に対する評価が高いかを識ることができる。

また、多胡碑記念館（高崎市吉井町）には近代名家の多胡碑臨書三種が常設展示されている。久志本梅荘、近藤雪竹、比田井天来の臨書である。天来門下の桑原翠邦旧蔵のもので、平成17年に同館に桑原呂翁氏より寄託された。（編集部）



比田井天来臨書

太政官・二品穂積親王、左太臣・正二位石上尊、右太臣・正二位藤原尊。

（掲載図版は25％に縮小）

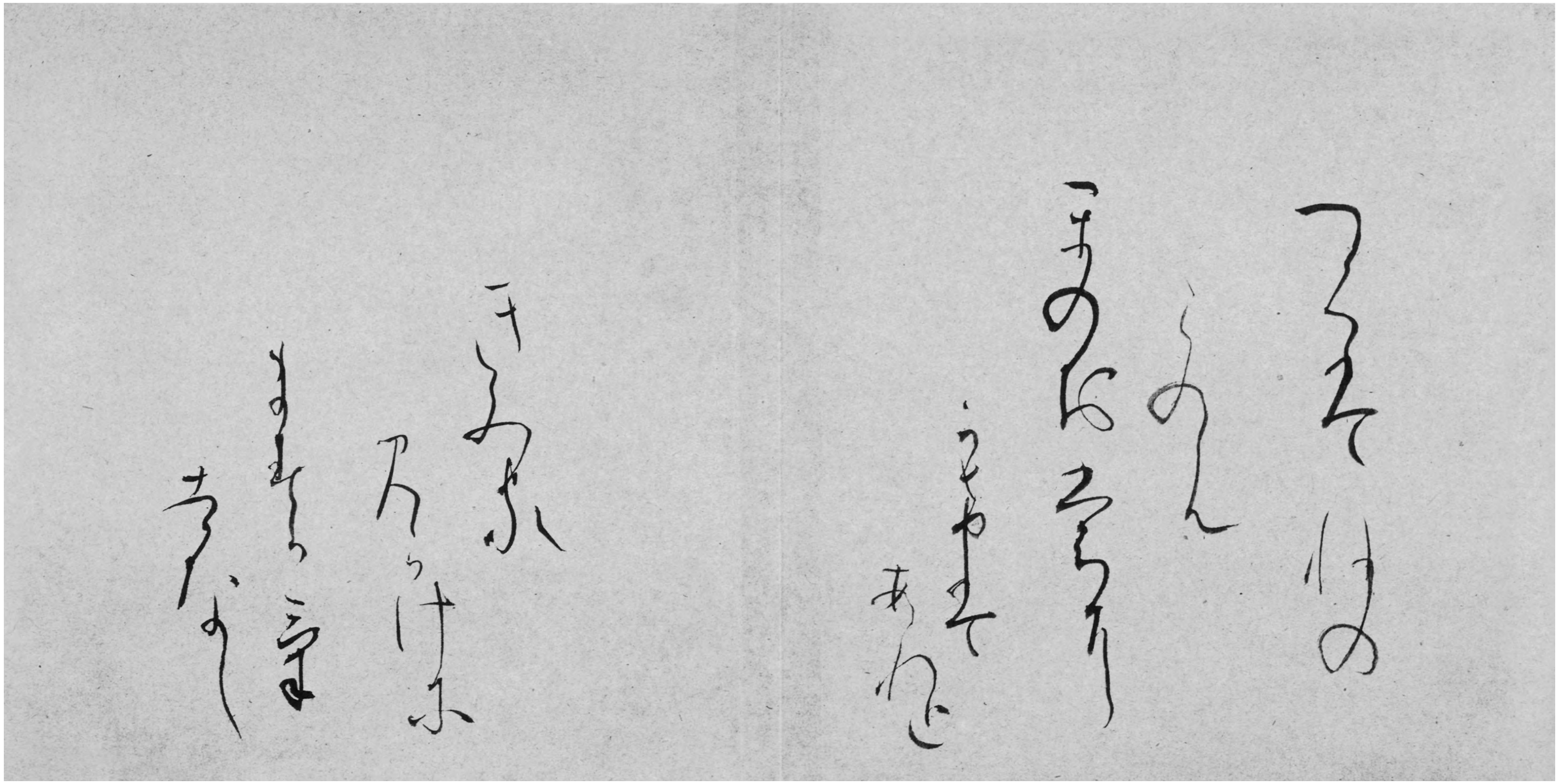
※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨（押印のみも可）

漢字研究部臨書課題　＝（半紙普通判・縦使用）上記の図版より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題　＝（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）当該古典の上記掲載部分以外も可。

継色紙（つぎしきし） ③ （伝 小野道風（おののみちかぜ）筆）

※落款を必ず入れる。
署名、もしくは〇〇臨
（押印のみも可）



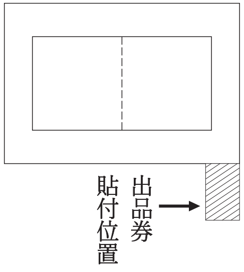
（藤田美術館蔵）

かな研究部臨書課題

（半紙普通判（料紙可）・横長に使用）別紙を裁断して貼付も可。上記の古筆の掲載部分の歌一首を原寸で書く。

特別研究部臨書課題

（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）上記の掲載以外も可。



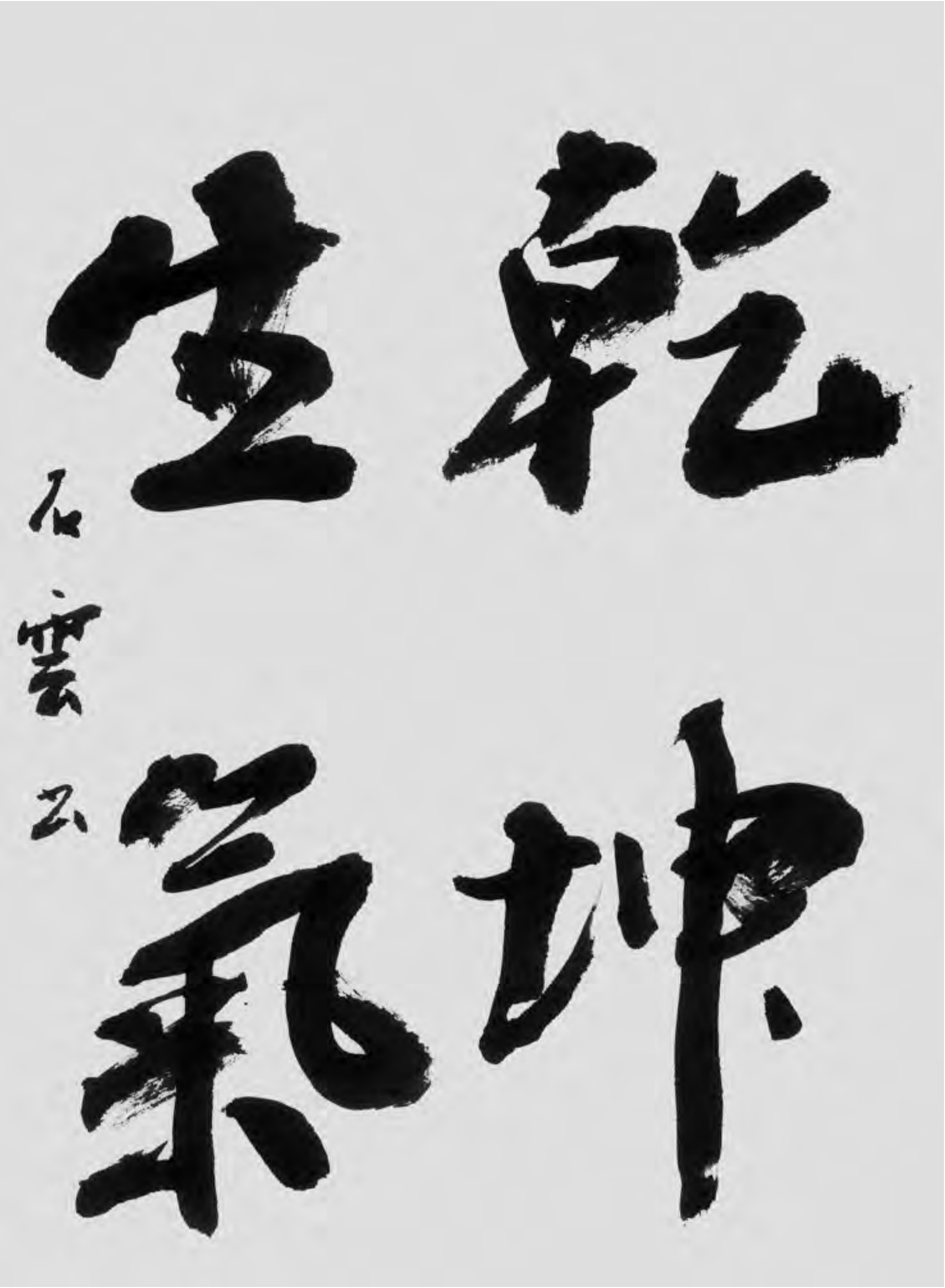
〈よみ〉
つくばねの　きみが
このも　みかげに
かのおもに　ますかげ
かげは　はなし
あれど

〈解説〉継色紙の特筆すべき点として、「内面書写」と「散らし書きの特殊な構成」があげられる。継色紙は粘葉装の冊子本であり、二つ折りにした料紙の内側の見開き部分（内面）にのみ書き散らしている。（外面の糊代の頁は空白）さらに、散らし書きの表現方法として、①右頁に上句、左頁に下句を書いたもの②左頁に上句、右頁に戻って下句を書いたもの③左頁に一首全部を書いたもの④上句を左頁に、外面二頁を飛ばし次の内面の右頁に下句を書いたものなどがある。これらの形式に、鑑賞者はまるで庭園の石や流れ、花、風、借景などに視線を奪われるかのような心地よさに包まれる。筆者の美意識は平安朝の他の古筆には見られない高さを誇っている。（編集部）

※掲載図版は90％に縮小。

漢字規定　初段以上【七月十五日締めきり】用紙　半紙普通判

小竹石雲選書



乾坤生氣　よみ（乾坤の生氣）

書体＝自由

習い方解説（三）

小竹石雲

乾坤生氣（鍾惺）
（乾坤の生氣）

肉太の気骨ある行書を蘇軾に求めてみた。

・その場合、字形はやや扁平にし、筆先の力が紙背までとどく気持ちで、気迫のある運筆に心がけた。

・腰高にならないお相撲さんのすり足の気持ちで筆先がバタバタしないように攻めの一手で書いてみた。

漢字規定　秀級以下　**【七月十五日締めきり】**　用紙　半紙普通判

尾形澄神選書

山雲海月　よみ（山雲海月（さんうんかいげつ））

書体＝楷書

習い方解説 ㈢

尾形澄神

山雲海月（禅語）
（山雲海月（さんうんかいげつ））

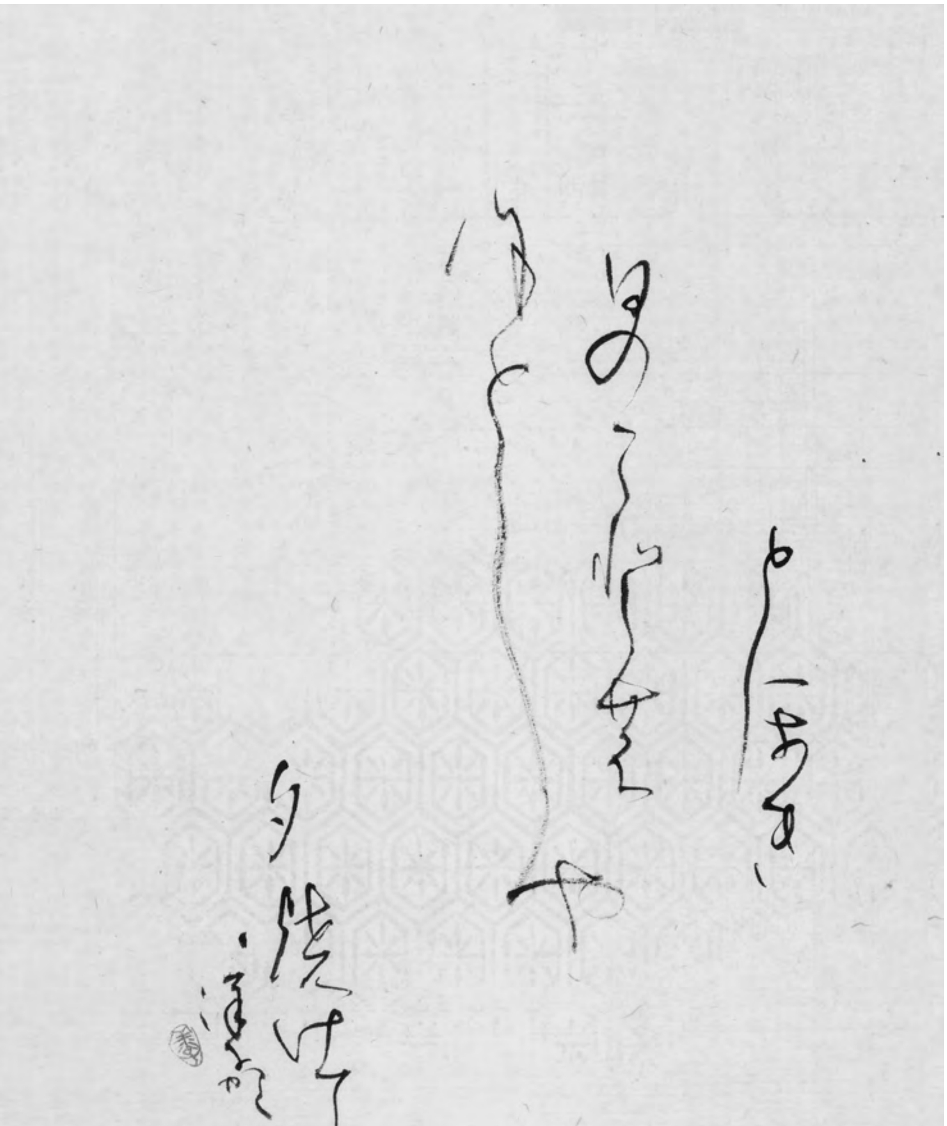
「山雲海月の情」から来た語。名利を離れた洒脱な境地のこと。

褚遂良の雁塔聖教序の筆遣いを意識した。筆毛の弾力を活かし、俯仰法（掌が下向きに俯したり（俯（うつむ）いたり）、上向きに仰いだりする筆法）による運筆は軽妙でありながら線質に強靭さを秘め芸術性高い。抒情を誘（いざな）う筆意は妙趣に富み洒落た雰囲気を醸し出している。

『山』横画は鋒先を吊り上げながらリズムよく送筆。『雲』二画目入筆の角度、三画目の転折は深く折れた後鋒先を立て直す。『海』さんずいの其々の角度、鋒先を吊り上げつつ運筆する最終画に留意。『月』右の縦画は途中で鋒先を絞り、再び開く。はねは、ゆっくり押し出す感覚で収める。

かな規定　初段以上【七月十五日締めきり】用紙　**半紙**普通判（**料紙可**）

下谷洋子選書



よみ方　遠（とほ）き日のこと（登）の（農）ご（許）としや夕焼けて（天）　洋子かく（久）

創作

習い方解説（三）

下谷洋子

遠き日のことのごとしや夕焼けて
（加藤楸邨）

誰でも、遠い昔、こんな夕焼けの中にいたことがあるのでは？

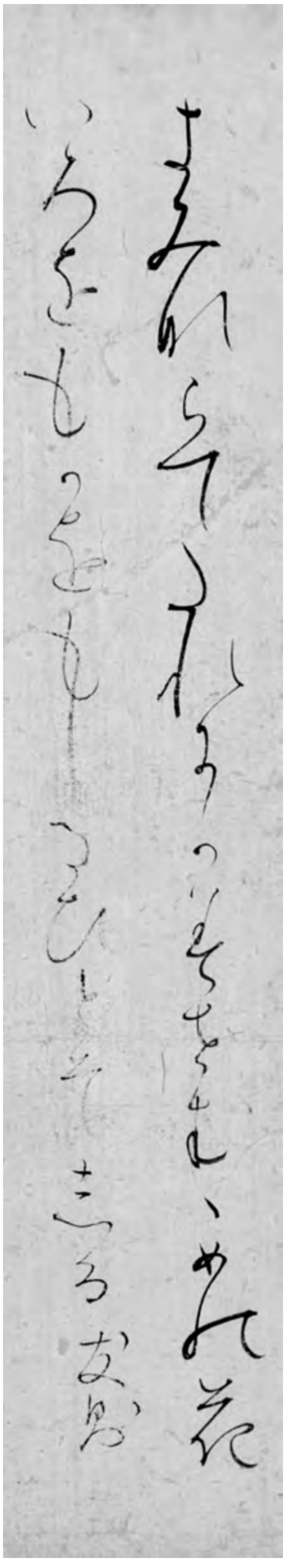
皆さん小筆は何種類持っていますか？大きさ・毛質や形状の違いなど小筆も様々あります。俳句は臨書より大き目、和歌を書く時よりややおろした筆を使うこと。紙の前後左右の空間は和歌と同じ、小さすぎても細すぎてもバランスが悪いので、この半紙に収める感覚を早く掴んで下さい。

現在の展覧会におけるかなは、臨書、創作とも印のみで済ませていますが、最後に作者や出典を記したりすることもあります。今回は名前を入れてみました。…書を、かなでは…かくと書く事が一般的です。作者名や名前は詩文書のように書かなければいけないものではありませんが、入れて全体が更に見映えよくならなければ必要ありません。あくまでも調和が大切、よく漢字書のように紙の左端中央に名前を入れる方がいますが、かなではそれはしません。

かな規定　秀級以下【七月十五日締めきり】 用紙　半紙タテ$\frac{1}{2}$（**料紙可**）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真の和歌を**臨書**する。または**部分**（**2字以上の連綿**）を**臨書**する。

粘葉本和漢朗詠集
（掲載写真拡大111％）



よみ方　き(支)みな(那)らでた(多)れに(尓)か(可)み(美)せ(世)むゝめの(能)花
いろをもか(可)をもしるひとぞし(志)る友則

かな条幅規定【七月十五日締めきり】 用紙　小画仙紙半切（**料紙可**）

善養寺紅風選書

よみ方　ゆふがほ(夕顔)のしぼむは(盤)人の(乃)しらぬ也(那里)

創作

習い方解説 ㈢

善養寺　紅風

ゆふがほのしぼむは人のしらぬ也
（松尾芭蕉）

俳句は、紙面の空間が多くなります。縦に長く伸びる線、横に張る線を配字し、余白が単調にならないよう注意しましょう。「し」が二つ入っていますが、一つ目はのからの気脈で筆先から入り弾力をつけ次の字に進みました。しが同じ線にならない様工夫して書いてみましょう。

※タテ形式に限る

漢字条幅規定　初段以上　【七月十五日締めきり】　用紙　小画仙紙半切

種谷萬城選書

少年易老學難成一寸光陰不可輕　（宋・朱熹「偶成」）

（少年老い易く学成難し　一寸の光陰軽んず可からず）

書体＝自由

漢字条幅規定　秀級以下　【七月十五日締めきり】　用紙　小画仙紙半切

川島舟錦選書

去年花裏逢君別　今日花開又一年　（韋應物「寄李儋元錫」）

（去年花裏君に逢うて別れ　今日花開いて又一年）

書体＝自由

習い方解説 ㈢

種谷萬城

先ず、北魏の造像記を臨書し、その後、その書風で、朱熹の詩を倣書しました。点画が角張り、刀意があり、迫力に溢れ、豪放な魅力に富んだ書です。硬い毛の筆で、濃墨を用い、起筆を強く打ち込み、力強い送筆と、切れ味の鋭い収筆を工夫しました。気迫に溢れた書を書くには、適切な執筆法、腕法、姿勢と、気力の充実が大切です。

※タテ形式に限る

習い方解説 ㈢

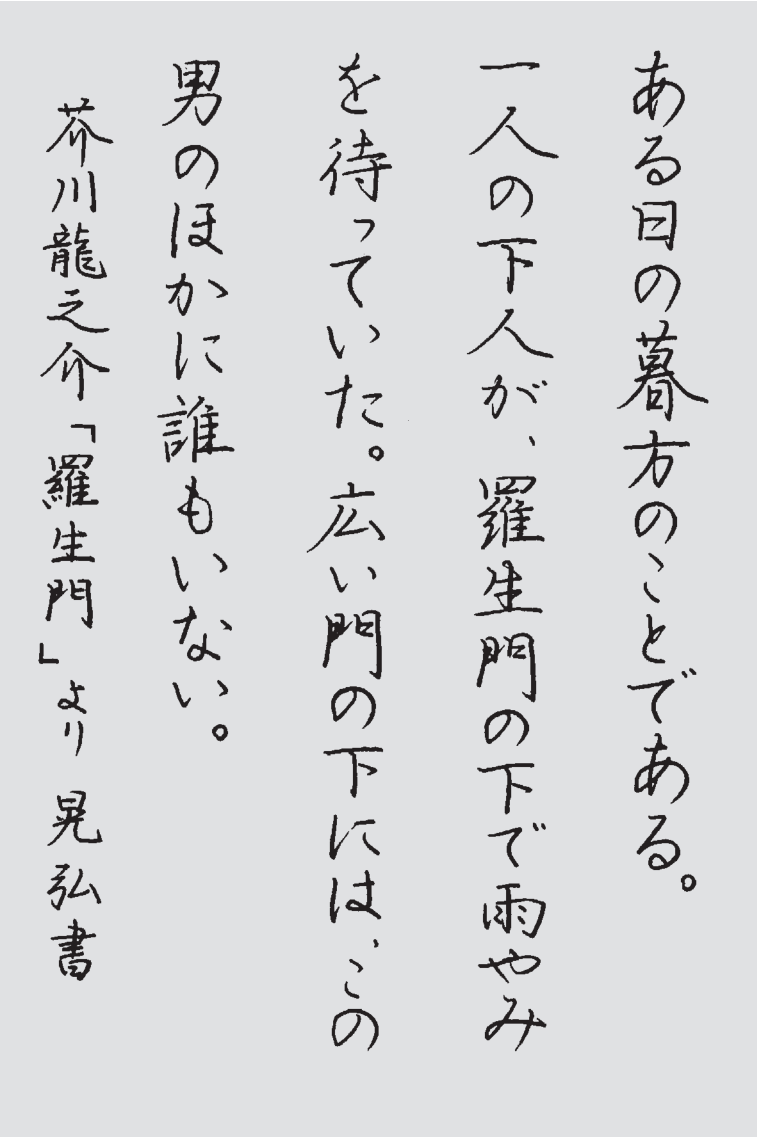
川島舟錦

行書は、日常生活に最も多く使われる書体です。速く書くことができ、しかも読みやすい。楷書に近いものから草書に近いものまで幅広くあり、表現には重宝な書体といえます。

運筆の緩急、抑揚などがはっきりとし、筆路も明確です。筆脈や墨の潤渇、リズムを意識し、効果的な表現を工夫してみましょう。

ペン字規定 **【七月十五日締めきり】**

大隅晃弘選書



用紙＝はがきの大きさ（14.8×10㎝）、白色のもの、**黒インク**使用のこと

書体＝自由

習い方解説 ㈢

大隅晃弘

毛筆に対する硬筆、とりわけペン字については、日常生活に用いる実用性を意識した学習に重点を置くべきでしょう。小稿においては、幾つかの筆記用具を用い、異なる書式のペン字書について触れていきたいと考えています。前回まで用いたボールペンは、実社会で最も使用頻度の高い筆記具の一つといえるでしょう。字粒の大きさに対しての太さを考慮に入れながら、書き味の好みに合わせて、自分に適するボールペンを選ぶとよいでしょう。

今回は、書写用のサインペン（水性）を使いました。紙質によっては滲みやすく、書写に適さない場面もあります。また、状況に応じた、油性・水性の使い分けも忘れてはなりません。太さも様々ですが、表現の用途に適したものを選びましょう。ボールペンと異なり、サインペンの穂先は適度な弾力があるため、運筆の変化を表現することも可能になりそうです。

※落款（自分の名前）を必ず入れる。

今月のホープ作品 各部総評
NO.684

漢　字　部　師範　井野元玉香
柔毛筆による渇筆の美しい品格の高い作品。更に潤渇、文字の大小など紙面に対する演出がほしい。
◎漢字部総評　上級者においても参考手本の手習い的作品が多い。木簡を知って書くか否かがポイント。（翠風評）

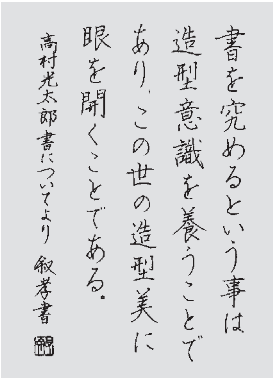
漢字条幅部　師範　浪川　秋花
木簡隷風をバランスよくまとめた作。運筆のリズムが小気味よく明るく爽やか。落款も調和する。
◎漢字条幅部総評　上級金文調の参考例による作が多かったが篆書用筆に難点ある作多し。字形のバランス含め基礎力を。（大雲評）

前衛書部　特選　星野　成美
紙面縦半分を上下に突き抜く思い切った構成。淡墨の使い方も巧みでにじみが詩情を醸（かも）し出す。
◎前衛書部総評　線質、墨色、構成等考慮された作品多くなった。より独創性を期待。（京子評）

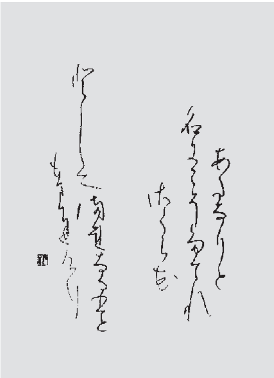
現代詩文書部　特選　田中　一葉
線質深く練度が高い。強弱の変化も自然で、横への流れも心地良く感じられる秀逸作。
◎現代詩文書部総評　見栄えの良い作品目立つ。文字造形要一考作あり。（邑峰評）

かな条幅部　五段　富澤　白雲
切れ味よく豊かな動きで颯爽とする。深い渇筆は、巧みな墨量と運筆の速度の加減を心得たものか。
◎かな条幅部総評　解りやすい手本のため誤字は少なかったが、墨量過多、墨色が濃いなどは、かなの流れを欠き見苦しい。（洋子評）

ペン字部　師範　安藤　叙孝
軽妙な筆致で、字間も良い安定作。中心も通り縦の流れがたいへん心地よい作となっている。
◎ペン字部総評　紙面構成良くまとまった作品が多かった。ただ字形を意識するあまり流れが途切れた感の作も散見された。（豪峰評）

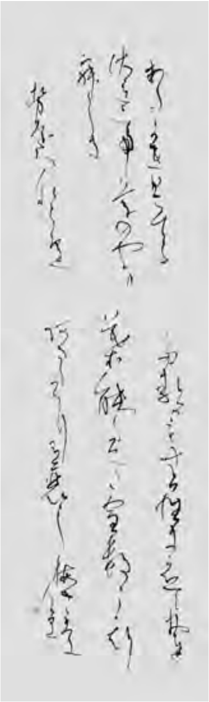


かな部　師範　永井　伯泉
自然で美しい連綿線で終始して優しく香る作。過剰でないことの魅力が十分伝わってきて飽きない。
◎かな部総評　概ね高レベルの出来で好ましいが、変体がな多・連の曖昧な作、字粒過小の作散見で残念。基本の見直しを！（明子評）



今月の 特別研究部優秀作品（特選）

かな　（高崎）　小峰美加子　「あたたかき」



小峰美加子　書

175×53㎝

◆細線だが、直筆で切れのある線条が懐広く、流麗に表現されている。行毎の潤渇のバランスも美しい。（多希子評）

◆字形、細線の響きがリズムに乗って表現され、筆力、気力を感じる。終始一貫した美しい作。（藤扇評）

◆短歌二首を上下二段に爽やかに展開した技術の高さに敬服。字形など安定して潤渇のバランスもよい。（大雲評）

◆画仙紙の裏を使用し、響きのある書線で表現され、潤渇も美しい。流麗で格調高い作品となっている。（仙草評）

前衛書　（紅瑤）　栗原りか　「闊」

栗原りか　書

180×60㎝

◆重厚な書線で躍動感があり、中央の厳しい線律が見るものを圧倒している。上下の大きさに変化を。（仙草評）

◆上部からの筆勢が滝の如く流れてる。巧みな筆さばきは若さの象徴ではないか。切れのよさが眼をひく。（藤扇評）

◆上部から下部へ一気に展開したリズムが魅力的な作。渇筆部にやや上すべりの感あり。厳しさを望む。（大雲評）

◆濃墨の線に気迫を込め、紙面に叫んでいるような造形、躍動感に溢れ、中央部の渇筆は明るく爽やか。（多希子評）

現代詩文書　（恵雅）　板橋雅邦　「中原中也の詩」

板橋雅邦書　60×180㎝

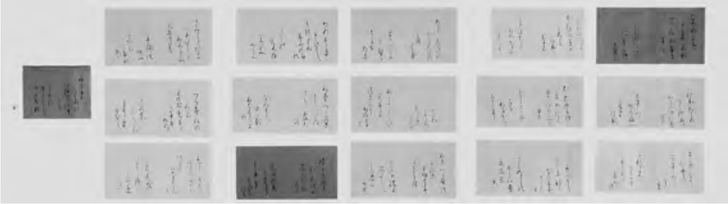
◆細字表現の三連はリズミカルで明るい。最後に大胆な広がりを展開した意表をつく表現が斬新。（大雲評）

◆濃墨で四グループ構成。細線の響きが見る際に心打つ。起承転結を心得た作品創りに敬意を表す。（藤扇評）

◆四つに分かれた集団構成、極端な変化を避けテンポ良く書き進む。最終章の大字表現が景色となる。（多希子評）

◆すばらしいタッチで現代感覚に溢れ表現形式が見事な作。左への広がりが絶妙です。大字のたのバランス一考を。（仙草評）

臨書（千葉）猪又理扇「継色紙」



猪又理扇臨　47×165㎝

◆古筆のなかでも、高いレベルの技術を必要とする継色紙を丁寧に臨書されている。抑揚ある線の多習を。（多希子評）

◆原帖の構成、雰囲気をよく観察し、真面目な臨書態度を買う。やや厳しさに欠ける面あり。更に努力を。（大雲評）

◆緩急抑揚の変化に富んだ継色紙。非常に難しい臨書作です。形臨見事に仕上げてます。更に線の魅力を。（藤扇評）

◆難度の高い継色紙を古筆料紙を使いまとめあげた。原帖を忠実に臨書した努力作です。今後更なる書線の研鑽を望みます。（仙草評）

漢字（八街）

神保清風

「李頎詩」

神保清風書

175×55㎝

◆多字数の表現力。一貫性を持ち見事に書き通した。更に墨量に気をつけ響きある線質を。存在感あり。（藤扇評）

◆弾力する筆勢が素晴らしい。多彩な線質が目を楽しませる。縦横に伸びる線は躍動感に溢れている。（多希子評）

◆通貫したリズムとバランスのよい大小の変化で安定した作。墨色がやや甘くボヤけて見える所あり。（大雲評）

◆軽快な書線で一気に書かれた躍動感ある作。文字の大小・運筆の抑揚遅速の変化があり秀作。（仙草評）

漢字（蒼原）金濱珀燁「多胡碑」

◆素朴で大らかな気風を買う。行の流れも自然さを醸し出している。骨力ある線があれば尚。（大雲評）

◆六朝風の古朴な書線で、文字の大小・傾き等原碑の特徴を捉えている。さらに線質に粘り強さがほしい。（仙草評）

◆表情豊かな作風。大らかな表現共に素晴らしい。鄭道昭の風格をただよわせる多胡碑の魅力を発揮。（藤扇評）

◆線の粘りに妙味を醸し、深みを表現された。古碑を楽しむかのような余白は創作作品のような気配。（多希子評）

金濱珀燁書

180×60㎝

創作の部（62点）
漢字—8点
かな—7点
現代—22点
篆刻—0点
前衛—25点
臨書の部（21点）
漢字—17点
かな—4点

総出品点数 83点

〈特選候補者〉

（創作の部）
「漢字」
もく　森田　藤谷
八街　小川　白柳
「かな」
大雲　神谷　雲卿
奥田　小林　純風
「現代詩」
玄穹　千葉　紅雪
千葉　平野　笛舟
白珠　高村　光霞
うる　今関　心華
加美　小川　祥燕
「前衛」
杏苑　松永　杏苑
蓮紅　大友　紅蓉
台原　吉田　恵也
秀水　坂井　初江
角田　坂田　翆江
（臨書の部）
「漢字」
大雲　宮原　香扇
英峰　佐藤　桂香
もく　西川　藤象
大雲　江本　興舟
蘇我　田村　鄭雲

翠径　良子　美千　敦子　葵龍　京花

白杜　舞宙　美楓　直子　淑子　豊苑

光堂　舟花　清耀　永吏子　美梢　初江

蒼風　雅悠　祥扇　雅芳　真理　妙華

漢字研究部（多胡碑）

選評　名越蒼竹

今月のホープ作品

相内沙莉

漢字研究部　特選　相内沙莉

特徴の出しにくい課題ながら、素朴さ大らかさをみごとに表現できている。始筆のねじ込みがやや不足した感もあるが濃墨を使ったゆったりとした運筆によって線質が薄っぺらにならいよう細心の注意が見て取れる。

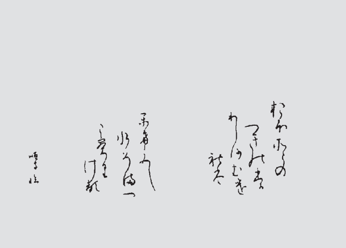
◎漢字研究部総評

編集部の解説に「南北朝の北魏に見られる雄渾な六朝楷書に近く…」とあるためか、龍門造像記風の方筆で臨書したものが散見されました。しかし解説の続きを読むと「鄭道昭の書風に通ずる」とあるので、円筆を意識すべきことが分かります。さらに多胡碑は鄭道昭の楷書の中では論経書詩に近い雰囲気がしますので、このことも意識すべきだったと思います。古代碑で不鮮明な字も多く、明らかな誤字がかなり見られたのは残念でした。

かな研究部
（継色紙）

選評　勝山初美

今月のホープ作品



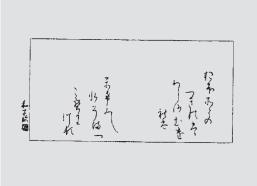
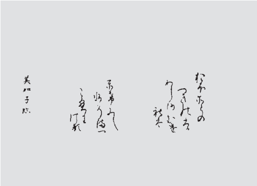
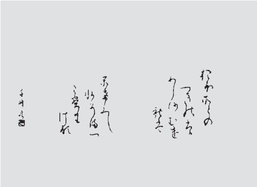
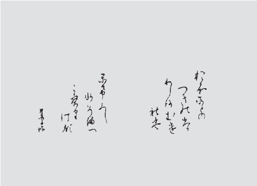
木村順子

かな研究部　特選　木村順子

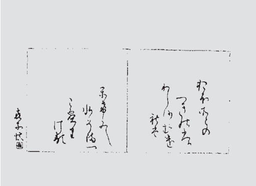
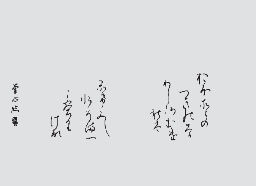
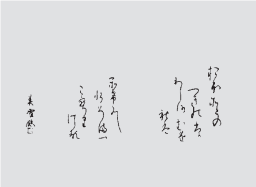
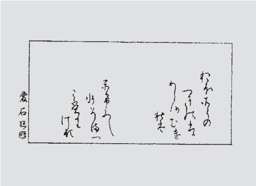
墨色鮮やかで荘重、線の流れや動きも美しく日頃の鍛錬が窺えます。また空間処理もよく掴み、観察力の優れた見事な作品となりました。

◎かな研究部総評

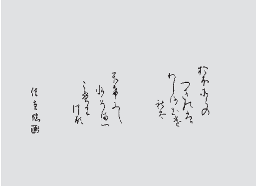
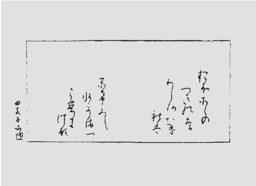
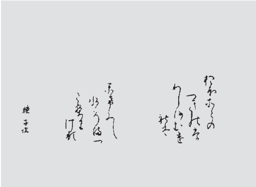
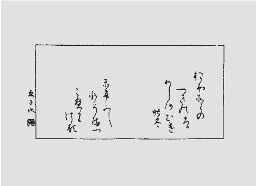
俯仰法の線質を捉えた作品もあり、全般に良く書けていました。余白の美といわれる散らし書きの継色紙です。紙面と文字のバランスに留意しましょう。

和子　美加子　千峰　理恵子

喜子　奎心　美雪　愛石

佳恵　由美子　睦子　恵子

かな研究部成績表

特選

うる　木村順子
清月　境野和子
高崎　小峰美加子
玉松　長谷川千峰
秀水　富澤理恵子
玉川　野中喜子
青蓮　沼田奎心
蓮紅　本田美雪
石習　松丸愛石
桜草　苗代佳恵
ＡＩ　生方由美子
祥紫　杉田睦子
上泉　中尾恵子

清月　小林嘉江
高崎　根津飛龍
颯葵　後藤良泉
澄春　宇田川春華
玉松　橋本紅霞
倉吉　中江みよ子
三鷹　小林葉子
大雲　草刈眞華
潮音　齋藤杏邑
うる　飯高幹生
翠　下津舟楓
樹原　近藤淑子

秀作（50音順）

玉松　青木葵郷
松村　青木玉枝
もく　青木藤漣
ＮＨ　赤川薫
水海　飯泉洋子
大雲　礒貝清耀
蘭鼎　市川サチ子
八戸　市川紫泉
正華　伊藤英子
やま　伊東京子
ＡＩ　伊藤寿子
高真　梅山久子
もく　岡部藤瓊
大雲　片山恵風
華祥　加藤雅芳
ここ　加藤翠陽
蘭鼎　川﨑優子
東向　菅野静代
立精　菊地白雅
幕張　北村恵舟
白珠　工藤史音
たか　小林晃代
蒼陽　込山美艸
京橋　近藤松春
蒼原　齋田舞夢
菊月　斎藤功
ＡＩ　清水由紀子
紅瑤　須田香舟

泉会　辻洋子
上泉　中村シゲ子
千葉　平山彩華
長月　平山さだ子
前橋　別府信子
大雲　堀切幸雲
長月　増田佳子
声香　宮内成子
硯水　宮澤草秋
蘭鼎　森直子
清月　大和由紀江
竹美　横山蘭舟

佳作（50音順）

紅瑤　藍澤白珧
菊月　新井恵子
椿翠　安藤美代子
岩沼　石崎正子
玉川　今井花枝
竜泉　今村貴泉
陽陽　岩崎陽光
澄春　岩瀬祥園
たか　梅津佳代子
高井　榎田和子
白鷲　大木歩佳
梅桃　大西一美
書游　小野寺みよこ
附中　國峰琴翠
文筆　熊谷紫蘭
大雲　黒柳竹葉
奥田　小林純風
樹原　紺野遊山
英峰　斉藤早苗
春汀　佐々木和子
大拙　佐藤陽子
たか　猿渡篁右
書游　庄司咏艸
高崎　神宮玉枝
鈴木睦心
蕙書　関口芳枝
竜泉　髙橋雅泉
天璋　田口香代子
琇韻　竹内美智子
玄穹　千葉陽子
上泉　塚本ちえ子
一宮　鶴田雅裕
たか　樋泉雪篁
上泉　長沼えり子
澄春　浪川秋花
土気　西澤瑠美
たか　浜野永篁
生大　藤本登喜恵
琇韻　眞塩栄子
高崎　松浦玉江
白露　松村陽子
〃　南玉枝
こだ　宮川洋子

旭老　鈴木恭子
土気　杉田祥風
澄春　新行内瑞華
竹原　代田葉子
蒼原　庄司櫻空
八生　篠田恵美子
八雲　七條裕美
八街　佐々木美恵
山武　佐々木町華
光彩　櫻田龍貞
大雲　鷺山美梢
蕙書　坂本里美
〃　齊藤静流
澄春　齋藤翠香
〃　後藤喜萩
大阪　小林萩江
こだ　小島ふみ子
墨花　小口智子
千葉　河野恵子
大雲　高武玄城
正華　木原輝子
長月　木暮典子
千葉　菊地泰峰
初香　菊池喜美子
土気　川﨑一人
琇韻　加納順子
黎明　金子奈津希
正華　加藤春菜
樹原　葛恵美
正華　加瀬明日夏
雲溪　香川翠溪
大阪　小野萩光
伏華　小熊喜代子
澄春　小川輝峯
椿翠　大島昌子
正華　大木教誉
たか　梅木篁山
土気　臼井綾乃
華祥　板垣青鳳
八街　石渡翠径
堺　石田悦子
書游　石川桂華
こだ　五十嵐佳栄
大拙　荒木孫功
游水　荒川裕泉
もく　新井藤雪
大阪　天羽多恵子
仙台　熱海桃翠
光彩　浅川みな江
松村　阿久澤隆華
白珠　相内沙莉
高陵　會木勇介

入選（50音順）

菊月　宮崎英明
宗苑　茂木絢水
桜草　守友志津子
椿翠　安嶋眞砂子
華仙　山口雪翠
昌苑　吉田翠綾
治田　鷲山ゆかり

選外161名氏名略

竹原　渡邊美筍
春汀　渡邉貞子
正華　鷲沼将太
大阪　六波羅箏玉
明漢　吉田千鶴子
もく　吉種藤玉
琇韻　吉川幸恵
幕張　吉川素香
蓮紅　遊佐紅雅
書游　遊佐一榮
東伯　山本真紀
玉川　谷知裕美子
竹美　八木橋紀舟
白鷲　森谷友香
あか　本吉明香
調布　武藤蕙睦
春汀　宮野鼻満津枝
墨宣　真庭タケミ
千葉　松重翠景
白鷲　松崎拓海
上泉　本多和枝
白露　古谷由美子
大阪　廣地美幸
土気　平山優子
椿翠　平山かつ子
前橋　春山勝美
京橋　春岡聡春
畭尾かほる
蘭鼎　林雅子
初香　畠山のぶ子
はせ　長谷久子
上泉　根岸正子
水海　根岸とみ子
髙陵　丹羽美恵子
白珠　西山葵龍
泉会　永田時子
玉川　中澤綾
天璋　中里星子
遊雲　土居京仙
麗澤　富田瑶翠
大阪　冨田萩彩
春汀　渡子紀子
大阪　徳田萩峯
高真　鶴淵亜希
祥紫　敦賀澄美恵
秀畝　筑井宏子
生大　田村春華
玉松　田中耶衣
やま　田玉哲子
笨睦月
白珠　高原梨秀
玉川　髙原貞子
書游　高橋徹子
竜泉　泉水龍宝
玉川　関根美代子
白露　春原慶子
秀水　砂川洋子
琇韻　砂岡裕子
宮城　鈴木昌恵
鈴木利子